



藤谷 謹至 議員
(拓政会)

問

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、道の駅・忠類周辺施設の利用規制が行われ、パークゴルフ場、キャンプ場も閉鎖された。しかし、6月以降は道の駅駐車場に道外を含むキャンピングカーが多く駐車し、キャンプ場にはテントが隙間なく設置された。この現象は全国的に見られ、ウィズコロナ社会での新しいレジャーとしてキャンプニーズの高まりも起因しており、今後、更に利用者が増えることも予想される。幕別町では忠類を観光の拠点と考え、ナウマン公園遊具等の周辺整備を積極的に行ってきた。道の駅について伺う。

問 道の駅・忠類、ナウマン公園、キャンプ場の利用状況と周辺整備を含めた考えは

答 公園やキャンプ場などの観光拠点は地域経済に一定の効果をもたらしている

町長

(1) 令和元年度の道の駅の来場者数は約25万人。ナウマン公園は、令和元年のゴールデンウィーク初日に768人の利用があった。今年は調査を行っていないが、外出自粛期間が明けてからは例年どおりの利用者が訪れている。キャンプ場は、今年は気温が低下するシーズン終盤まで多くの方に利用され、お盆の8月13日には東側一番奥にある第1キャンプ場がテント29張り、ナウマン象記念館の東隣にある第2キャンプ場が45張り、合計で74張りと概ね収容限界となる利用があった。

(2) 道の駅・忠類におけるコロナ対策は、手指の消毒液の配置、レジカウンターにビニールシートやレジに並ぶ際のソーシャルディスタンスを促すマークの設置、店舗閉店時刻の繰り上げなどの対策を行ってきた。道の駅駐車場の管理体制は、除雪等駐車場のハード面の維持管理は町が、清掃等の日常的な維持管理は指定管理者が行っている。

(3) ナウマン公園キャンプ場の在り方については、忠類地域を訪れた方が気軽に楽しめる観光資源の一つとして整備し、これまで多くの家族連れや旅行者に利用され、中には1か月以上の長期にわたり滞在される方もいる。こうした集客が、道の駅、アルコ236、ナウマン象記念館といった周辺の観光施設への入込とつながり、さらには市街地商店や飲食店への流れとなっている。また、長期滞在しているキャンパーの方は、パークゴルフや祭りなどを通じ地域住民との交流も行われており、今後はそ



ナウマン公園キャンプ場

の交流をきっかけに移住や関係人口の拡大へとつながっていくことを期待している。

パークゴルフ場利用者とのすみ分けなど周辺の管理体制については、本年度からナウマン象記念館裏の第2キャンプ場を、駐車スペース40台分とテントサイト50区画分に区切るとともに、パークゴルフ場との境界にフェンスを設置するなど区分した。

再質問 キャンプ場の管理の在り方、予約制・有料化の考えは。

答 有料化については、キャンプ場に限りず全ての公共施設について内部協議を進めている。今後、考え方を示す。